平成27年度

事業活動報告書



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

. 法人の概要

(平成28年3月31日現在)

	(平成28年3月31日現住)					
法人の名称	公益財団法人吉野川紀の川源流物語					
 設立年月日	平成14年4月1日					
松立1八日	平成24年4月1日名称変更し、移行したことにより設立					
	この法人は、「樹と水と人の共生」を目指し、吉野川・紀の川の源流部					
	を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切にし、流域をはじめ都市					
	部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動					
定款に定める	を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行う。そして、これに必要となる拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、					
目的						
	源流域の自然環境保全活動に努める。これらの活動により、流域をはじ					
	め都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄					
	与することを目的とする。					
	この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。					
	(1) 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業					
	① 「吉野川源流-水源地の森」体験学習プログラムの提供					
	② 森づくり体験学習プログラムの提供					
	③ 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援					
	④ 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成					
	(2) 流域交流・啓発にかかわる事業					
	① 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施					
	② 水源地域の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷					
	物等の刊行、電子情報媒体の作成					
	(3) 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業					
	① 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施					
定款に定める	② 「吉野川源流-水源地の森」自然実態調査の実施					
事業内容	③ 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実					
	施					
	(4) 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業					
	① 展示を通じて情報発信を行う施設の管理・運営					
	② 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに附帯する施設					
	の管理					
	(5) 学習教材や、啓発関連物品等の販売					
	(6) 他団体からの依頼にもとづいてこの法人が構築する情報や技					
	術によって対応可能な業務の受託					
	(7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業					
	2 前項第1号から第4号までの事業は、公益目的事業とし、奈良県内					
	で行う。					
主たる事務所	〒639-3553 奈良県吉野郡川上村大字迫 590 番地の 2					

評議員 (五十音順) 井上 正崇 (大阪工業大学学長) 上嶋 教孝 (川上村教育委員会次長) (龍谷大学教授 元奈良県教育委員会) 浦西 勉 大倉 一郎 (橋本市上下水道部長) 久保田 幸治(奈良県水道局長) 霜上 民生 (一般社団法人近畿建設協会理事長) 春増 薫 (川上村議会議長) 原田 武男 (和歌山県企画部地域振興局地域政策課長) 東谷 八宗 (川上村議会総務文教委員長) 一松 旬 (奈良県地域振興部長) 森内 太 (川上村地域振興課長) 山崎 隆弘 (和歌山市水道局長) 役 員 等 理事 (代表理事・業務執行理事を除き五十音順) 栗山 忠昭 代表理事・理事長 (川上村長) 松村 悦治 代表理事·副理事長(川上村副村長) 業務執行理事 (川上村水源地課長) 森脇 深 小槻 勝俊 (奈良県地域振興部地域政策課長) 辻谷 達雄 (元 森と水の源流館館長) 西久保 智美 (コミュニティライター) 橋本 裕行 (奈良県立橿原考古学研究所附属博物館学芸課長) 宮口 侗廸 (早稲田大学教授) 横田 岳人 (龍谷大学准教授) 監事 (五十音順) 辰巳 八郎 (川上村監査委員) 中島 誠 (税理士) 定例理事会 6月 4日(前年度事業報告及び決算の件ほか) 定時評議員会 6月19日 (評議員選任の件、理事の選任の件 主な会議 前年度事業報告及び計算書類等の承認) 臨時理事会 8月24日 (評議員会の招集決議) 定時評議員会 9月 9日 (評議員選任の件) 定例理事会 3月23日(次年度事業計画及び収支予算書の件ほか)

. 事業の状況

公益事業 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

吉野川・紀の川の源流及び水源地域の自然環境や文化を資源とした環境学習及び体験等の プログラム実施を通じて、環境保全や保護についてともに考え、行動するきっかけを提供 する。そして流域をはじめ都市部の人々と水源地域の交流を促進し、これらの地域の環境 に対する意識の向上ならびに環境保全に寄与する事業。

	時期	回数	参加 数等	概要
水源地の森ツアー(一般公募型)	4・11 月	2 回	31名	「水源地の森」を案内
団体(企業含む)研修等での利用	通年	79 件	1,575名	水源地の森散策や森づくり体験など
環境教育支援 (学校対応)	通年	84 件	4,589名	小学校から大学までの見学案内及び 出張源流教室
源流学の森づくり	5・10 月	2 旦	19 名	一旦伐採された二次林での森林整理
(源流人会等の活動)				作業、「源流学」実技体験

公益事業 流域交流・啓発にかかわる事業

吉野川・紀の川流域をはじめ都市部の人々と相互に交流することによって、源流及び水源地域の自然環境や文化的価値を見出し、大切に守り育てていくことを目的とした啓発イベントや講座を実施する。そして自然環境について高い意識をもった人材育成につなげることで、これらの地域環境保全ならびに向上に寄与する。

	時期	回数	参加 数等	概要
源流のつどい	6・1月	2 回	68名	「ホタルのタベ」「氷瀑ツアー」
夏休み(館内)プログラム	7~8月	6種	71名	丸太切り体験、学習シートほか
川上村環境基本計画推進業務	通年	4 旦	70名	住民参加による環境クラブ活動と 役場公共施設職員研修の企画・実施
「源流学的キャンプ講座」	7月20日	1 回	700名	上記事業の一環で、村外からの来訪 者を対象としたマナーアップ講座
森守募金キャンペーン on おはなしカーニバル	7月5日	1 回	250 名	多様な団体とともに実行委員会形 式で運営に参加し募金を呼びかけ
流域等各地へのPRキャラバン	通年	11 回	389 名	吉野熊野国立公園設立80周年記念「よしくま祭り」への出展ほか
機関誌『ぽたり』発行	7・12・3月	3 回	_	源流人会会員、村内観光施設、国会 図書館、村内図書館ほかPR用配布

公益事業 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

吉野川・紀の川流域の源流部における自然的価値及び文化的価値を大切にするため、流域を はじめ都市部の人々にも参加を求めながら調査・研究を行い、その成果の発信を行うことを 通じて、これらの地域の環境保全ならびに向上に寄与する。

	時期	回数	参加 数等	概要
吉野川紀の川しらべ隊	4・5・8・3月	5 回	237 名	参加体験型でのコケ、水生生物・昆虫・ 野草などの観察
水源地の森自然環境調査	6・9・10 月	5 回	10名	希少植物の調査
専門家による調査・研究	5・6・10・11・12月	7 回	22 名	植物 (下層植生・トガサワラ)・両生類・昆 虫など研究者の調査支援
川上村歴史講座	6・9月	2 回	78名	役場・施設職員を対象に歴史情報を共有
講演会「温泉考古学事始め」	2月20日	1 旦	80 名	歴史講座の一環として、橋本裕行理事に よる講演会を開催。冬季の温泉をテーマ にホテル杉の湯とも連携

公益事業 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドを一体的に 維持管理及び運営を行うことで、地域環境保全ならびに向上に寄与する。

	時期	回数	参加 数等	概要
「森と水の源流館」管理	通年	_	利 用 者 12,414名	日常の維持・管理、運営。定期点検、清掃、補修。ギャラリー展「川上村の鳥たち」
「吉野川源流ー水源地の森」管理	通年	35 囯	_	散策路周辺の見回り・点検、補修 (入山者 612 名)
「水源地の森交流施設」管理	通年	35 囯	_	水源地の森に付帯する休憩・管理施設の 見回り・点検、補修

協力・協賛した主な事業

- ・土工房轆轤 陶芸作品展(特定非営利活動法人奈良21世紀フォーラム)4月
- ・川上小学校児童 ゴイシツバメシジミ調査(環境省)5月
- ・ユネスコエコパーク公開シンポジウム (大台ケ原・大峯山ユネスコエコパーク保全活用推進協議会) 11 月
- ・トヨタ・アクアソーシャルフェス (トヨタ・奈良新聞社) 8月・11月
- ・川上村「奥吉野お湯めぐりバス」ガイド、OP プログラム (川上村地域振興課)2月
- ・「つなげよう、支えよう森里川海」全国リレーミニフォーラム in 川上(環境省)2月
- ・文化遺産を活かした地域活性化事業(文化庁)5月~3月 なと

収益事業

ミュージアムショップ事業

拠点施設において、訪問の記念となる品とともに、源流及び水源地域の支援・PR並びに 自然環境の保全・啓発等に寄与する関連商品の販売を行う。

概要

オリジナル商品(副読本・絵本・ポストカード・楽曲 CD「源流の郷」など)・地域の自然、歴史・文化・伝承の書籍、環境に配慮した製品(洗剤など)、村内で採水・製造のペットボトル入湧水、自然観察用品(ルーペなど)を紹介・販売。

収益事業

受託事業

他団体からの依頼にもとづいて当財団が構築する情報や技術によって対応可能な業務を受 託し行う。

	委託者	時期	概要
和歌山市民の森管理業務委託	和歌山市	9~3月	3ha の二次林管理作業
和歌山市民の森源流体験学習業務委託	和歌山市	10・11月	市民の森への林道が歩行困難なため 「水源地の森」学習会として実施
水のつながりプロジェクト実施等に係る業務	川上村	6月~10月	農作業やトレッキング等源流と平野部の 相互交流事業実施支援、報告書作成
地域活性化に向けた協働取組の加速化事業	環境省	6月~3月	紀の川(吉野川)流域における地域 産業を ESD の視点でいかす教材化
吉野川紀の川型流域連携モデルの具現化業務	川上村	12~3 月	上流・中流・下流のめぐみと人をテ ーマにつながりを視覚化・PR 展開

公益事業 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

一般公募や団体の要望により企画する「水源地の森ツアー」のほか、源流地域の自然や 文化にふれる体験型ツアー形式などによる研修の受け入れを行った。

【一般公募型 水源地の森ツアー】

4月、11月開催、31名が参加。(7月開催予定分は荒天により中止)





【企業や行政など団体による研修等の利用】



奈良県自治研修所県新採用者研修(4/10)



関西電力労働組合森づくり(10/16・17)



エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業 (1/19)

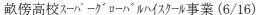


紀ノ川農協婦人部研修(3/24)やまいき市と協働

【環境教育支援 (学校対応)】

森林環境学習の受入れや「出張源流教室」を実施。







大和高田市立磐園小学校出張源流教室(12/7)

【源流人会の活動】

山村に残る知識や知恵、技を「源流学」として共有化することを目指し、事業を実施した。





「源流学の森づくり」道なおしや除伐の活動への参加(5/2 10/25)





「水源地の森」での道なおしの活動 (3/7) や調査への参加 (6/12・13)

公益事業 流域交流・啓発にかかわる事業

源流地域の魅力を介して、都市部の人々との交流をはかる催しの開催や、各地に出かけてのPR・普及啓発に取り組んだ。

【源流のつどい】

「ホタルのタベ」(左:6/27)、「氷瀑ツアー」(右:1/30)を開催し、地元の人々とも交流。





【夏休み(館内)プログラム】

夏休み期間中「宿題応援!」を掲げ、「牛乳パックのリサイクルはがきづくり」や外部講師の指導によるクラフト指導などの体験プログラムを提供。





【機関誌『ぽたり』No.33~35 発刊】

7月・12月・3月の3回、活動報告や 調査結果などを記載し発刊、源流人会 会員、村内観光施設、国会図書館、村 内図書館ほかへ配布。



【流域連携各地での啓発活動・PRキャラバン】

紀伊風土記の丘「風土記まつり」(左:11/15) や吉野熊野国立公園設立 80 周年記念「よしくま祭り」(環境省主催 右:2/13~14) 等、流域や協力関係にある団体の行事に出展。





【川上村環境基本計画推進業務】

重点プロジェクトの促進として、役場・公共施設職員の研修会や、村民を対象とした学習会を開催。大和ハウス石橋信夫記念館での村民研修や(左)、川上村役場や村内施設職員を対象とした水質に関する講習(左)など、本財団のネットワークによる内容で実施。





【源流学的キャンプ講座】 【森守募金呼びかけ】

7/20 川上村環境基本計画推進業務の一環として、オートキャンプ場において夏場の来訪者を対象としたマナーアップイベントを開催した。また 7/5 には吉野子育てネットワークや教育委員会と共催の「おはなしカーニバル」にて森守募金を呼び掛け。







公益事業源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

調査事業では、源流地域の環境の実態把握と周知をねらいとして、流域をはじめ都市部の人々に協力を呼び掛けた参加型の調査も実施した。また本年度、歴史資源を活用する観点でも事業を行った。

【吉野川紀の川しらべ隊】

川上村内のほか、和歌山市など流域市町村をフィールドに観察会を実施。



5/6「和歌山市の植物を調べよう」(和歌山市)



3/13「コケをしらべよう」(川上村)

【専門家や研究者による調査・視察】



「水源地の森」下層植生調査(6・10月)



旧白屋地区の調査速報を

一般向けのレポートとして発信

【歴史資源の活用】

役場や公共施設職員と川上村の歴史資源情報を共有する講座(6・9月)と、奈良県立橿原 考古学附属博物館橋本裕行先生により、講演会「温泉考古学事始め」(2/20)を開催。





公益事業 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

【「森と水の源流館」の管理】

館の維持管理、案内や企画展・歳時展示などを実施。北階段ギャラリーにて公募による作品展(「川上村の鳥たち」)も開催。記念撮影の新スポットとなるよう内山りゅう氏の大判写真幕を設置。





【「吉野川源流 - 水源地の森」・「水源地の森交流施設」の管理】

水源地の森内の散策や木橋の復旧、また付帯する休憩施設・管理棟の定期見回り・点検、 簡易な補修を実施。







村と漁協名で釣客向けの啓発看板を設置。

収益事業 (受託事業)

【和歌山市民の森源流体験学習業務】(和歌山市)

平成 16 年度から継続する和歌山市民の森づくり事業であるが、現地までの林道の崩落により一般の参加者では現地までの歩行によるアクセスも難しい状況のため、水源地の森での学習会とした。 $(10/3 \cdot 11/21)$





【水のつながりプロジェクト実施等に関する業務】(川上村)

大和平野土地改良区の農家作業の体験を通じて、源流部と平野部の小学生の交流事業や大 人向け源流トレッキングなどの運営を受託。





源流の子どもの田植え体験 (6/17)・稲刈り体験 (10/21) (橿原市内)





平野部の子どもの源流体験 (9/11)・大人向け源流トレッキング (8/27)

【地域活性化に向けた協働取組の加速化事業】(環境省)

標題事業において全国17団体の一つとして採択を受け「紀の川(吉野川)流域の地域産業を ESD の視点でいかす教材化」というテーマで、上流・中流・下流それぞれのキーパーソンとともに現状把握や資源掘り起しのためのヒアリングを実施。流域をテーマとした持続可能な地域づくりのための環境学習の視点について共有・発信。





【吉野川紀の川型流域連携モデルの具現化業務】(川上村)

上記事業の活動において深まるキーパーソンとの関係をいかし、平成 26 年度の全国源流サミットにおいて提起された「真の流域連携」の具現化を目標に、上流・中流・下流の第一次産業の振興につながるしくみづくりとして、紀の川(吉野川)によるつながりを一般消費者への可視化を実施。









【水源地の森守募金】

年度内で 554,512 円をお預かりし、奈良県と和歌山県紀の川流 域の小学校 4 年生を対象に下敷き教材無償配布(約19,000 部配 布)や「水源地の森」啓発ツールを製作。



パブリシティ(新聞ほか掲載記事)

守る活動に協力しよう

じて、川上村の「森と水 21世紀フォーラム」を通

吉野川・紀の川源流を

計7 学校 (熊谷啓子校長) の3、4年牛 ョウ科)を探して、川上村立川上小 されていない絶滅危惧Ⅰ類種のチョ 川上村は本州唯一のゴイシツバメ ゴイシツバメシジミ(シジミチ 人が11日、フィールド調査を行

調査した。 野公園で、約1時間、昆虫を採集し、 員と一緒に、学校近くのあきつの小 の伊藤ふくおさん(8)や環境省職 シジミ生息地。しかし、 情報は平成12年で途絶えている。 児童らは、講師の昆虫生態写真家 村内の目撃

きれいな川に住むアサヒナカワトン かったが、珍しいイカリモンガや、 ゴイシツバメシジミは見つからな

本州では約15年前から生息が確認

川上小児童がフィールド調査

対象のゴイシツバメシジミ調査会を

かった。これからも興味を持って調 ることになった。 チョウが生きる環境の回復に協力す がエサにする植物、シシンランを学 べたい」と話していた。 どもたちは増殖用の株を受け取り、 校で栽培して増やすことを提案。子 素晴らしい環境」と、同村の自然の 人切さを子どもたちに伝えた。 虫をたくさん見つけてとても楽し 3年生の納田みろくさん(8)は 環境省はことし8月、村内で村民 また、ゴイシツバメシジミの幼虫

た。伊藤さんは「虫がいっぱいいる ボ、カワゲラやゾウムシの仲間など 十数種類の昆虫を捕獲。観察を行っ

伊藤さん (左端) に教わって虫を集める児童 西河のあきつの小野公園 =11日、 川上村

きょうから奈良陶芸

催する「土工房轆轤」が 南1の市美術館で作品展 15日から奈良市二条大路 大阪工芸協会副会長が主 と、陶芸家の古野幸治・ を開く。展示作品は販売 収益をNPO 社 伸和エージェンシー の源流館」に寄贈する。 初代社長、大辻康夫さん (89)が提案した。大辻さ 大和ハウス工業系広告会 は土工房会員で同フォ 創業者が川上村出身の 市美術館 十工房軸

昨年の「第3回全国豊か 5カ所で活動しており、 約200点を展示する。 学園前工房の会員の作品 阪府、奈良・兵庫両県の ーラム理事。 な海づくり大会」では天 目治体に寄贈してきた。 展示販売 作品展の収益を県内の これまでも2年に1回 収益源流館」に寄贈 土工房は大 598) 日は午後4時)。 でアユとアマゴを放流し 料。問い合わせは土工房 前10時~午後5時 ることにした。 ており、源流館を支援す 作品展は19日までの午 皇后両陛下が川上村 (0742.43.8 (山口透) 。入場無

爆保全に充てられる。 教室は陶芸家の古野

> 森と水の源流館への 教室の会員で

和平野の水源である吉 源流館」に寄付した。大 得た収益など約31万円 川上村の「森と水の 川・紀の川源流の環 NPO「奈良21世紀フ

森と水の源流館へ贈る

芸教室「土工房轆轤」奈良市鶴舞東町の陶 が8日、作品の販売で

ナこ つ や小物を展示販売し 19日に奈良市美術館で 会長が主宰。 先月15~ 幸治・大阪工芸協会副 有志約30人が作った器 作品展を開き、会員の



「森と水の源流館」の担当者に収益金など を手渡す古野幸治さん (右)

5.3

陶芸収益を環境保全に

育っている。 除伐したエリアはヒメシャラやツク バネガシなどの多様な樹木が大きく 本年度初回のボランティア活動に

代の男女が参加。初年度から携わる は、県内や大阪府などから20~70歳

ら11人が2日、川上村三之公の山林 の再生を願う県内外のボランティア 流した。同村迫の環境学習施設「森 で除伐や、道作りなどの作業に汗を と水の源流館」が平成15年から、ボラ ンティアを募って森づくりに着手。 吉野川の源流をはぐくむ豊かな森 ボランティアら汗

源流の森の再生のために活動す = 2 日、川上村三之公

機会。これからも長く付き合い、 ジャーではなく自然と関わる貴重な 学大学院生、奥田絵さん(25)は「レ り返る。今回が初参加の関西学院大 を教わりながらの作業だった」と振 後の雰囲気だった。どの木を残すか さん (6) は「最初は本当に伐採直

かな自然を守るためにできることを

わってもらい、千年先にも貴重な生 日の予定。 **感系を引き継ぎたい」と話している。** 西田恵主任(34)は「多くの人に関 ってもらう水源地見学ツアー、ボラ 目分なりに考えたい」と話した。 ンティアを

定期的に

実施。

担当の上 次回のボランティア活動は10月25 同館は、水源地の現状と課題を知

奈良新聞

大阪市阿倍野区の公務員、辻井茂彦

出身の大辻さんは「美 じて行われた。川上村 し、同フォーラムを通 康夫さん(9)が提案 オーラム」 理事の大辻 と話した。【塩路佳子】 少しでも協力したい さんは「水は命の源。 残したい」と言い、古野 しい森と水源を後世に

道作りや

18

川上村との繋がり感じ



-列に並んで田植えに取り組む児童=17日、橿原市田中町

地の子どもたちの交流を図 吉野 と、市立香具山小学校5年生 学校4~6年生の児童9人 る 交流を通して確認するのが 参加したのは村立川 「水のつながりプロジェク の |川分水の水源地と受益 一環。同分水で互いに がっているのを、 を深めた。 は水生生物につ ミニ授業を実施。子どもたち 古山暁さんが生き物観察

いても

理

合って植えられてとても してもらい、みんなが協力し 初めて田植えを体験した 上小5年の森野瑞 は「分かりやすく指導 と笑顔で話した。 喜

生の田植え体験を行った。 水田で、同市と川上村の小学 平成24年にスタートした 野土地改良区と川 田植えに取り組んだ。 また、和歌山大学大学院生 人々らの指導を受け、熱心 一列に並び、地元の農家・選4人。約45平方以の水

> AQUA LISA STILL

FES 参加者全員にプレゼント!!

とプスは銀日見し出し となります。

奈良県:されいな吉野川を未来に残そう

奈良新聞 6.18

奈良県の重要な水資源である吉野川を守るために、「吉野町河川田議美化事業」の一起として 河川敦の一斉溝切を行います。灯篭への絵描き体験や和紙を使ったハガキ作りも行いますよ!

月 的:大切な水資源である吉野川について学び、きれいにする

時: 2015年7月20日(月)9:00~12:00(受付8:30~)

場 所:吉野川河川敷リバーフィールド吉野

場所:吉野川河川敷リバーフィールド吉野(吉野郡吉野町上市河川敷)

人 数:100人

渠期間:2015年7月7日(火)必給

学訓条件:小学校3年生以下の方は、保護者の四件が必要です。

注意事項:お申し込み多数の場合は抽造とさせていたださます。

お準束たは公共交通機関でお越しください。

働きやすく汚れてもよい容器、運動物でお越しください。

様子、着着え、複合物、お飲み物は各自お持ちください。

昼食はご用度しております。

小原決行ですが、発天の場合は顕然となる場合がございます。 ※職種日は承白新聞社公式ホームページ等でお知らせします。

主義:上市町内会連合会、吉野町、奈良原朝社/協力:上市商店会青年郎、吉野町商工会女性部上市支部、吉野スタイル、ねじまき堂(吉野町地域おこし協力様OB)、吉野土木事務所、奈良県立吉野高等学校、大阪芸術大学

水生生物をしらべよう 第2回:

第1回の苦野川河川敷の一斉清掃に続き、第2回は吉野川の添流、音無川の蟾蜍の滝で水生生物を探します。 養雄を学び、森と水の大切さを実施しましょう!

的:大切な水資源である吉野川について学び、きれいにする 日

第: 2015年8月1日(土)午前の部10:00~12:00(受付9:30~)

午後の部13:30~15:30(受付13:00~)

所:蜻蛉の滝付近 あきつの小野スポーツ公園奥

所: 缤蛤の滝駐車場(吉野都川上村西河)

人 数: 100人 (午前の部:50人、午後の部:50人)

集期間:2015年7月15日(水)必糖

主催:森と水の源流館(公益財団法人吉野川紀の川瀬流物語)、奈良新聞社

参加条件:中学生以下の方は、保護者の肉件が必須となります。 注意事項:お申し込み多数の場合は始治とさせていただきます。

・ 数字場をご用慮しておりますので、お章でお望しください。

発きやすく汚れてもよい記載、濡れてもよい殺(収減、適定式のサンダルなど)で

お難しください。

様子、強権力、衛内型、対策の地は各自的特性ください。

小統体行ですが、技芸や資用地域の場合はプログラムの単を変更する連合がございます。

はがきに、第1回参加、もしくは第2回参加(第2回の場合は午前の部か午後の部)を明紀の上、参加者全員の①郵便番号②住所 ③氏名④年齢⑤電話⑥緊急連絡先(携帯)⑦メールアドレスを書いて、下記までお申込み下さい。FAX、メールでも受け付けます。 ○〒630-8686 奈良市法華寺町2番地4 奈良新聞社 企画部 [2015アクアソーシャルフェス] 係

○FAX:0742-32-2771 ○メール:planning@nara-np.co.jp ※お申込みいただいた個人情報は、本字菜以外の目的には一切使用いたしません。

webでも簡単にお申込みができます!⇒aquafes.jp

お問合せ/奈良新聞社 企藝部[2015アクアソーシャルフェス]係

tel.0742-32-2112(平日午前9時~午後5時)

トヨタのハイブリッド

○トヨタ「AQUA SOCIAL FESI! 2015」の公式 Facebookページはこちら → 関 facebook.com/aquates ○AQUA SOCIAL FES!! 事務局 0120-033-213 ※平日 9:00~18:00 (土日祝は休み)

FUN TO DRIVE, AGAIN. 🏵

串 し込み方法

川上で親子⑩人が自然学習

良新聞社は1日、川上 村西河の音無川周辺で アクアソーシャルフ 森と水の源流館と奈 | 00人が清流に住む生 | のでうれしい」と笑 き物を採集し、川の自 然を学習した。

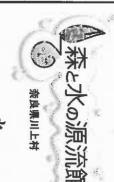
いた。親子連れら約1 物をしらべよう」を開 エス2015-水生生 の2回に分かれ、環境 指導で河原に降りて、 科学博士の谷幸三氏の 生物を採集した。 参加者は午前と午後

れ、楽しかった」と話し 顔。愛知県豊田市の同 小魚を4匹も見つけら 5年生、田中結基君 (10) も「いろいろな

生物について詳しい話 シ、カワニナなどを次 りしてカゲロウやゲン 沢ガニを捕まえられた あまり採れなかった 学6年生、岡本成斗 を聞いた。 々に捕獲。谷氏から各 ゴロウ、オタマジャク 参加者は、石を裏返し たり、砂利をすくった 網やザルを手にした 大和高田市勝目の小 (12) は「これまで



水生生物を探す親子連れら=1日、川上村西河の 音無川



だから、森を守る。水は森で生まれる。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈貞県吉野郡川上村迫590-2 (宮の平) 電話 0746-52-0888 FAX 0746-52-0388

The state of the s

和歌山県在住内山りゆう

豊かな森に支えられて存在する。るので、「緑のダム」とも呼ばれる。水は、るのが、麻の存在だ。森は大量の水を蓄えこうした「水の循環」のなかで、要となる…。

気が発生し、雲となって再び雨を降らせとなって流れ下り海に注ぐ。海から水蒸りみに降った雨が森を潤し、やがて川山みに降った雨が森を潤し、やがて川

いう信念が生まれたのであろう。らこそ、水が生まれる森を守っていくとらこそ、水が生まれる森を守っていくとた歴史がある。森を知り尽くしているかった、川上村は林葉の村として栄えてきが水源地の森。として守り続けてきた。然林が残る。この広大な森を村が購入し、なかでも三之公地区一帯は手つかずの天川上村は吉野川の源流に位置し、その

「水源地の村」の信念



日、大淀町下渕を見学する参加者=7を見学する参加者=7

などを見学した。また、

2015」が7日、県 などを巡って行われ 密を探る。夏休み親子 の「おいしいお米の秘 活協同組合ならコープ Aならけん)と市民生 内各地の河川関連施設 体験吉野川分水ツアー 県農業協同組合(J

た。親子連れなど13組 37人が参加。大和平野 土地改良調査管理事務 地改良区(橿原市)を に水を送る吉野川分水 れる吉野川の取水施設 渕の近畿農政局南近畿 見学した後、大淀町下 の役割を学んだ。 所を訪問。県南部を流 一行は、大和平野土 年生、中尾麗美さん を説明した。 時代から300年以上 設管理調整官は、江戸 験施設「森と水の源流 足が、吉野川分水によ 続いた大和平野の水不 館」などを見学した。 って解消したことなど この後、川上村の体 大和郡山市の小学3

JAtropho 親子で見学ッアーならコープと 親子で見学ッアー

同事務所の三好真二施一 市の小学3年生、小嶋 美遥さん (9) は「県 (9) は「水を大切に



た。 ことが学べた」と話し

内にはダムが多くある



かつて製紙工場が紙を作るため、川上 が食べられません。

水がなくなって、下流の町んぼが枯れて紫 の山の木を全部切ってしまったら、胴から もし水道水の源流になっている哨ょ村 どの災害を起こしてしまいます。

ると水を貯えられなくなり、土砂崩れな 切ったらいけないのです。天然林の木を切 ります。反対に広業樹などの天然林は かないと太陽が差し込まない暗い森にな だやヒノキを植えた人工林は、切ってい ひから

切ったらいけない木があるんです」と書 れます。実は、切らないといけないべと 「みんな木は切ったらダメと答えてく

切ったら悪いことですか?」と最初に質問 ※が生えてます。 切っても良いですか? **置ちゃんは小学校で話をする時「森に**

> 木は切ったら悪いのか 木は切っても良いのか

こと社合連雄さん(昭)に話を聞きました。 てます。その森を管理しながら、子どもたちに自然のことを伝えている書ちゃん 入ってもいい森で、手作りのあずま屋や星見台、ベンチなどを置い

う体験が、危険から回避するなります。ころぶとい くならみがみのなく 子どもは何が彪 言ってしまうとい 煮ったらダメ」と 先に「あふないから んは話します。大人が

とを学んでいったのです」と連ちゃ す。ばで火を助ける心、危険なこ 所を通るとき気をつけて歩きま ろんだ子どもは次にころんだ場 手を貸してあげる子どもたち。こ

「走ってすべってころんだ子どもに でのびしています。

木に聲ったり、走り鳴ったり、宇き宇きの う授業をしました。子どもは思い思いに せ、大人は何も口を出さずに見守るとい 違ちゃんの指導で、小学生に山で遊ば

山で薬や食べ物をもらう 山で遊ぶと危険が分かる

たから。それと同じことをしているので の木をお金もうけのために切ってしまっ います。エジプト文明がほろんだのも、山 膨になるのにらりり年。今、再生し始めて **~を違っていった難職は終で無、もとの状** 約的億分) の木を切ったことがあります。 村の自然林400ヘクタール (東京ド

▲写真は昔の人の魚をとる知恵「ゴリ神し」。ゴリは川上 15 895/4 村の方面でヨシノボリのこと。木の枝を直径50cmくら いに乗ねて川横に合った長さにしてみんなで増す・+== の中に角を追い込む。炊いてみんなで食べる。 に合った長さにしてみんなで揮す。サデ

上村で重宝している。

本の様本が火の町 #の属も製物の保護、二

を忘れないでほしいのです。 みで生きて、自然から守られていること 森林が育んでいます。人間が自然のめく みんながただと思っている空気やがは

ています。これらは日本古来からの薬で れものです。ドクダミ、センブリも常用し たもの。今でも楽として活用している風 いう木の度を1日戦かけて煮詰めて作っ いました。陀羅尼輔という薬はキハダと 開を、会には野うさぎを捕らえて食べて 大替の人々は暮には山菜を、夏には『 ことを学ぶのです。

・川・海の恵みを未来へ」が開かれ

Ш 上 村

で7月20日、「山と川の夏休み― 川上村の白川渡オートキャンプ場 山と川で夏休み満喫 日川渡オートキャンプ場

ヤンプ場 (石端) =川上村の白川渡オートキ (石端) =川上村の白川渡オートキ



豊かな海づくり大会」の基本理念を 昨年11月に県で開かれた「全国

継承するもの。

来場者は楽しみながら自然の大切さ 内山りゅう氏との対談などもあり、 か、同村の栗山忠昭村長と写真家の 関する学習ショーやクイズ大会のほ 品などをアピール。舞台では環境に を再認識していた。 会場の26プースで14市町村が特産

> 奈良新聞 9.7



森と水の源流館の職員から動植物の話を聞く参加者= 川上村内

ど、川上村内で開かれ、 ングツアー」がこのほ 野川分水源流トレッキ 種原市城殿町)の「吉 人和平野土地改良区 川 上 を考えてもらう目的で 源流の環境を守る意味 分水の存在を認識し、

後は、 野川の源流域を巡った の登山口より出発。 昨年から実施。 一行は、同村三之公 同村宮の平の

県内外から12人が参加

水源守る意義認識を 源流ツアー歴史や生態系学ぶ を供給している吉野川 大和平野に農業用水

森の生活や歴史、生態 「森と水の源流館」で い」などと話した。

れば積極的に参加した できて楽しかった」、 系などを学んだ。 ての貴重な水源を散策 「農業、生活用水とし 水源を守る活動があ ツアー後参加者は

について学んだ。
久山小学校と同村立川上小学校の児童が、振流の生き物や自然環境する「水のつながりプロジェクト」が江日、同村内であり、同市立香大和平野土地改良区(橿原市)と川上村が吉野川の流域交流を促進

水のつながリプロジェクト

れた。 ト年生的人が同村を訪 験として、香久山小の いる。この日は療活体 行うなど交流を探めて 施。来月には稲刈りも で一緒に田植えを実 ら月、同市内の田んぼ 両校の児童はことし

や角を採集。県水生生を流れる音無川で昆虫河のあきつの小野公園両校児童は、同村西

存かった。痔れた川の生き物はいき物1種を確認した。れいな川に生息する生シマアメンボなど、きルやカワヨシノボリ、物研究会の分幸三会長

「生き物もみんな頑張の恐ろしさを紹介。の楽しさと、洪水などざまな生き物がいる川また合会長は、さま

り掛けた。 一人の命が大切」と語って生きている。一人

も民学。 べる防災ステーション 統館」や、大滝ダム学教育施設「森と水の源別童は、同村内の環境

た。 いだった」と言んでい 村の川はとてもきれ ボリを捕まえた。川上 (H)は「カワヨシノ ら年生の鍵本大樹君



;。。 見つけたカシカガエルに触れる子どもたち=11日、川上村西河のあきつの小野公園

=極原市田中町



どもたちの交流を図る の水源地と受益地の子 橿原市田中町の水田 と川上村水源地課は、 ートした、吉野川分水 った。平成24年にスタ 学生の稲刈り体験を行 て、同市と川上村の小 「水のつながりプロジ 大和平野土地改良区

「川上村には田んぼが

よる「水土里の会」の 地元の農家の人々らに 生の児童14人が参加。 に稲刈りに取り組ん 水田に一列に並ぶと、 指導を受けながら熱心 市立香具山小学校5年 6年生の児童10人と、 同課の森脇探課長は

「水のつながりプロジェクト」

エクト」の一環。 村立川上小学校4~

た」と話した。 った。保護者にも参加 ないのでいい経験にな してもらいたいと感じ

橿原市久米町の橿原市商工経済会館

自然文化を次の世代に

さつで「大台・大峯の

・大台町長は開会あい

協議会長の尾上武義

コネスコ五條など核心地域に



課題や可能性を語り合うパネリストら――日、「ユネスコエコバークで描く未来」をデーマに 55年に登録されたが、 来年3月にペルーで行 のモデル地域で、日本 録されている。 は、生態系保全や人と 120人が参加した。 目然が共生する暮らし では現在、7カ所が登 「大台・大峯」は昭和 ユネスコエコパーク

続可能な未来に向け を行い、一般市民ら約 公開シンポジウム「特 会は1日、橿原市内で でつくる「大台ケ原・ 市町村と三重県大台町 との関わりを考える」 て、森の恵み・森と人 人峯山ユネスコエコパ ク保全活用推進協議 上北山村など県内6一われるユネスコMAB 見通し。 から約3・3倍になる 現在の3万6000% するなどし、総面積は 約8万秒を新たに追加 心地域」に五條市や天 計画国際調整理事会 デルとなる「移行地域」 経済と社会の発展のモ か、その周辺に広がり 尾根周辺が加わるほ 川村などの大峰山脈の 国内推薦が決定した。 で、エリア拡張を目指 している。今年8月に 大台だけだった「核

ドイツの成功例などを 物生態学)は、ユネス と登録拡張の意義を強 地域発展を図りたい」 の使命。範囲を拡張し、 残すことは、われわれ 奈良教育大学教授(植 調。基調講演の松井淳・ コエコパークの概念や 広葉樹を含めた計画造 台町の宮川森林組合は 始めたことを紹介。大 林など転換する林業を 谷林業 (王寺町) の谷 森に親しむイベントを 業の歴史や都市住民が 茂則取締役は、吉野林 で、川上村の大山主、 第2部は事例報告

必要性を語った。 の人々が自然の大切さ くり隊」は、より多く と水の源流館」と橿原 印象付けた。 に気付く機会をつくる 市昆虫館が拠点の団体 取り組む川上村の「森 「虫いっぱいの里山づ また環境教育などに





年目で、これまでに4万人以上 同村で行われた水生生物観察会 以上で行われ、県内では8月に が参加。今年も全国100カ所 続き2回目。 アクアソーシャルフェスは4

辺で身近な自然を観察した。 の「蜻蛉(せいれい)の滝」周 金活動に関して学び、

同村西河 水の源流館」で水源地の森や保 同村迫の環境学習施設「森と れいな風景を守りたい」と話し じくらい澄んだ水だった。き 貫君 (19) は「滝は富士山と同 奈良市の小学4年、池田大

アクアソーシャルフェス 職員木村全邦さんらの案内で遊 いう伝承の滝。森と水の源流館 いたアプをトンボが退治したと 蜻蛉の滝は雄略天皇に食いつ

歩道を歩き、貴重なコケや植物

などを見つけた。

れら約8人が水源地の村の取り組みなどを学んだ。

ス」(森と水の源流館・奈良新聞社主催、アクアソーシャ 展開されている自然環境保全活動「アクアソーシャルフェ トヨタのハイブリッドカー「アクア」にちなみ、全国で

紙や毛糸で「申」作ろう!!

考研

県立橿原考古学研究所 付属博物館 (橿原市畝傍 町) が、来年の千支「申」にちなん だ工作教室を20日と26日に開く。

きょう、26日 工作教室

20日は「さるの型紙絵をつくろう」と題し、型紙に色を塗って作品を作る。午前10時と午後1時。

材料費300円。各先着10人。

28日には「さるの形のアクリルたわしをつくろう」を開き、アクリル毛糸を編んで猿や古墳、 埴輪の形のたわし―写真―を作る。 午前9時15分と午後2時。 材料費300円。 各先着10人。

問い合わせは同博物館(0744・ 24・1185)。 【矢追健介】





谷先生の麒麟で学習も 海流に住む生き物探察

かれて活動しました。

んなとても展覧した様子。

何匹も見つけた子など、参加者はみ

ズを捕まえた子や、いろんな小魚を

紫色の光沢を持つツーボルトミニ

次々に捕獲しました。体が大きく青

ひ、そのベジャクツ、七〇一十位が多

すくったりしてカゲロウやゲンゴロ

に川に入り、石を裏返したり砂利を

しました。親子連れで網やザルを手

生の指導のもと、川で生き物を採集

まず、環境科学博士の谷幸三先

第1回は午前と午後の2回に分

しながら自然観察を行いました。 と水の恵みについて学んだ後、散策 施設「森と水の源流館」で豊かな森 月公日、8人が参加し、川上村内の で中止となった第1回の代替は汀 近で水生生物を謂べました。荒天 流・音無川の蜻蛉(せいれい)の滝付 ←D、←00人が参加し、吉野川源 プログラムを開催しました。8月 した。4年目となる今年も2回の 守るため、様々な活動を行ってきま ○≒」では、奈良県の美しい自然を MI ->-000 >CO>

吉野川源流の自然観察 火船金の緑銀の砂御

ぱり~20・2~3~~~ ※平日~時~俗時(土日松は休永) お問い合わせ AGUA SOC-AL FES非心務局

いきますので、またどこかでお会いできる日を楽しみにしています! 人のUA SOCIAL FES! はこれからも全閣各地で活動を続けて 当日はご参加頂き、ありがとうございました!!

― 『奈良にご参加頂いた皆さまへ

大切さを学びました。 じて、源流の自然を守ることの しました。このような活動を通 から飛ばしたりして自然を満喫 について学んだり、ウラジロを崖 参加者はスギとヒノキの違い

ケや植物などを見つけました。 案内で遊歩道を歩き、貴重なコ 源流館職員・木村全邦さんらの という伝承の滝です。森と水の ついたアプをトンボが退治した 蜻蛉の滝は、雄略天皇に食い

自然観察を行いました。 だ後に、蜻蛉の滝周辺で身近な 地の様や保全活動について学ん 施設「森と水の源流館」で、水源 第2回は、川上村の環境学習

自然職点の大切さ学ぶ 火源地川上村での取組

然の仕組みなどを学習しました。 な髭を聴きながら、生物の特色や自 いて詳しく訓練しました。先生の愉快 続いて谷先生が、捕獲した生物につ



台画版作: 表成常篇的

一葉に搭載を行ったトヨ

S /順死店

無短

F

張風

トヨペッ

トヨタカローラ奈良

ネッツトヨタ

张凤萍蹈竹 (公益財団法人を野川紀の川瀬浦物館) 主催森と水の源流館

ていきたいと思います。 に残すための環境保全につなげ の成果をきれいな古野川を未来 活動に限り結みました。この学び たちの暮らしとの関わりを知る 終を嚴蔑、刑事物を行むに置せ、地 んでした。その代わり、源流の目 め河川敷の清掃活動ができませ んできました。本年は悪天候のた 吉野川の漢葉活動などに取り縮 う!は、この母なる川ともいえる mm ->-000 >C0>

平野の大地を潤します。 の流れとなり、奈良盆地や和歌山 トタラくいと流れ出し、やが下一窓 様に触えられ、それが湧き水とし 山地が源流です。降り注いだ雨は 吉野川は、川上村を含む紀伊

競協保護への新たな取締 源流の自然と生物を学ぶ 奈良盆地を潤す吉野川 川上村の「森と水の源流館」

人を突破



奈良新聞 2.2

たのは、今月9日に入館し 館から14年目で20万人を超 者数が、平成14年4月の開 思みを体感できる学習施設 た奈良教育大(奈良市)の 20万人目の入館者となっ 森と水の源流館」の入館 川上村の豊かな森と水の 村を訪れていたという。 に関するフィールド研修で けた教育推進事業の一環と 続可能な社会づくり」に向 して、川上村の森林や林業

中澤静男准教授と学生ら10 次世代教員養成センターの 人のグループ―写真。 持

る柏木地区を散策。村 奥駈道への登山口があ では、世界遺産・大峯 行われた。 る無料村内巡回バス 土・日曜に運行してい 日に村内探訪ツアーが ス」に合わせ、1月31 奥吉野お湯めぐりバ 川上村が28日までの 柏木名所めぐり

や文化を満喫

川上村内探訪ツアー

世界遺産の登山口散策

南朝名所めぐり」も行 時間のハイキング「後 わいを想像して楽しん このほか、約2・5

は参加費500円、「後一7557。 に実施。「柏木名所」 次回は27、28の両日

電話080(1450) 0888。御船の滝ハ し協力隊の竹中さん、 電話0746 (52) イキングは村地域おこ

居小屋やバスセンター が「レトロタウン柏木 館職員の木村全邦さん などに、かつてのにぎ 科理旅館のたたずまい でガイド。参加者は芝 へようこそ」との趣向 大正時代建築の ショップ (1個500 500円)と後南朝講 0円。また、6日には け)テラリウムワーク 円)が、7日には苔(こ 南朝名所」は同100 円)が行われる。 演会(参加費1000 御船の滝ハイキング (約6時間、 問い合わせは同館 参加費?

奈良新聞 2.18

まどりも



師伝承や後南朝の歴史 の自然や文化、弘法大

に触れる約1時間の7

スだった。

同村の森と水の源流

老舗料理旅館などが残る旧街道を見学する参加者 1月31日、川上村柏木

村商工会女性 発信しようと 石者らも参加 の日は地域お って活動。と 部が中心にな しし協力隊の

など、受け継いだ知恵を伝授した。 会では、うま味の増し方、美しい色を保つ方法 ○…「川ばた☆みーていんぐ」は、吉野川源 庭で毎年手造りしていると言い、講習 造り方を基本に工夫も加えながら、家 た一写真。 センターで行われた。男女約20人が参 りの講習会が16日、同村迫の川上総合 た☆みーていんぐ」の一環で、 加、講師の同村柏木の辻谷弘子さん (8) からみそ造りの秘けつを教わっ 〇… 辻谷さんは、祖母から教わった 〇…川上村の環境クラブ活動「川ば 流地域の暮ら り組みなどを 環境を守る取 しを見つめ、 みそ造

部や、「吉野川紀の川 進する同村商工会女性 物浄化の普及などを推 あいさつした。 に、環境に優しい微生 は台所から」を合言葉 続いて、 「美しい水

国民共通の課題とし る私たちにとってゆゆ ともと自然の一員であ 市集中で、自然とうま みが崩れつつある。も 所長が「人口減少や都 を目指す取り組み。 守り支える社会づくり て、豊かな自然環境を を広めていきたい」と 環境事務所の秀田智彦 しき問題として、認識 く付き合ってきた仕組 同プロジェクトは、 冒頭、同省近畿地方 した。 源地ともいえる」と話 川上村は紀伊半島の水 このほか参加者は、

グループセッションで 川海や森里川海と人と 来へとひきつぐ取り組 のつながり、それを未 「地域で残したい森里

と水の源流館 ムー8日、川上村迫の森 を交わしたミニフォーラ 流域住民が参加して意見

県から約50人が参加した。

にしたミニフォーラムが8日、川上村迫の森と水の源流館で行われ、同流域の同村や和歌山 環境省の「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトの一環で、吉野川流域をテーマ

川上で環境省ミニフォーラム 吉野川流域での事例報告

川はつながっていた。 と黒潮、水がつなぐ牛 自然博物館の平嶋健太 を行った。 きものたち」で講演。 取学芸員が「吉野·熊郡 「かつて吉野川と熊野 このあと和歌山県立

源流物語」が事例発表 | み」について意見交換 | 意見は、20日に富山 たミニフォーラムの 全国50カ所で行われ る。 ポジウムで発表され 市で行われる総括シン



村

0

温泉考古学のきっかけとなった宮の平遺跡を解説する橋本さん=20日、川上村迫の 川上総合センターやまぶきホール



橋本•橿考研付属博物館学芸課長 発祥の地

温泉遺構が見つかっ

は大滝ダム湖に水没し 国内有数だった。 を人口的に並べて祭り 見つかった石器の量も を行った痕跡があり、 に縄文遺跡。大量の石 宮の平遺跡は、現在 なぜ、吉野川最上流 紹介。 多方面に広がり、とて 皇帝の専用風呂なども 調査結果や中国・玄宗 山梨県・甲府城の発掘 た愛媛県・道後温泉や

「温泉考古学は

が発掘調査を担当した する草食動物が集ま 発祥の地」と位置付け 研究のきっかけで、 同村迫の宮の平遺跡が の狩猟場になった」と 物館学芸課長が「温泉 持説を展開。橋本さん 原考古学研究所付属博 には塩分摂取を必要と 川上村は温泉考古学 温泉考古学の提唱 縄文時代人の格好 橋本裕行・県立層 きの歴史を語った。 る」と日本人の温泉好

識が今に伝わってい 温泉の効能に対する知 いた を中心に多く存在して 似通った遺跡が東日本 をひもとき、 風土記などの文献史料 列石(ストーンサーク になったという。各地 の関わりを考えるよう き、温泉と遺跡の形成 ていたと村民から聞 くにかつて温泉が湧い ったが、遺跡のすぐ近 ル)など規模や時代が を調査すると、秋田県 遺唐使が持ち帰った さらに、日本書紀や 大湯温泉近くの環状 「遣隋使

が活動したのか疑問だ 域でこれほど活発に人

歴史講座「温泉考古学事始め

ターやまぶきホールであり、考古学的方法で温泉と人の関わりを探った。 県内外から約80人が参加した。

公益財団法人「吉野川紀の川源流物語」の川上村歴史講座「温泉考古学事始め」が20日、同村迫の川上総合セン

進

推

紀の川流域で暮らす人々や産業をつなぐ「流域連携 活性化に向けた恊働取組の加速化事業」(協働加速化 事長・栗山忠昭村長)は平成77年度、環境省の 事業)の採択を受け、環境教育などを通じて、吉野田 に取り組んだ。国土の荒廃や温疎化など山村が抱える 川上村の公益財団法人「吉野川紀の川瀑旅物語」(理 地域 知る

流 一部的場合工 機能用水の流れを通う

につなける川上村の取り組みが注目を集めることにな 課題を解決するため、流域連携によって地域の活性化

一吉野川紀の川源流物語

次産業を素材に教材化

域の産業を括かすことは、

を通じて、流域での多様なネ ットワークを広げている。 蒋流館』(川上村組)の運営 同財団法人では「森と水の

会)、中流域では紀の川市に 上村で3年目を迎えた地域お宇田篤弘氏、源流域では、川 ある紀ノ川農業協同組合長の (和歌山県漁業士連絡協議

▼協働キーパソン だ。また和歌山市立教育研究・キーパーソンとして取り組ん・氏と川上村水源地踝を断例の・氏と川上村水源地踝を断例の・

EVAD Ciducation for Sustainable Development 技術の成本であります。 技術の解決来や社会プンリのために行動できる人の育成を目的として放射のこと。 環境 人権・健康権 後ろび氏性、まちついらなりのさまできなテーマ が多る。2002年937ペネマルグセミットにおい で日本が「持続可能な開発のための教育の10年(EVS Dの10年)」を提案と、同年の国連総会で、2006 中から2014年1でをEVSDの10年として技術され Dは各国で進められている れを受け、 国際的な取り組みとして、 とも協働の連携を深めた。

素材に教材を作成して、流域 「技や知恵」「ひと」などを 農業、漁業にまつわる「恵み」 での活用をはかることにし

▶平成27年6月 流域の5つの自治体・教育委員 会への間取調査を開始 ▶同年8月~10月 環境活動グループ、企製、林業・ 農業・漁業の従事者、学校の先生 や博物館の学芸長など、のべ15 団体へのヒアリングを実施。



協働取り組みのプロセス

▶両年11月・12月 「森」「大地」「海」でワークショ ブを実施し、40を超える団体が 参加。「教材化」を検討。

平成28年2月6日 全国の採択団体による報告会が 東京で行われた。この取り組み は、奈良長と和歌山県の県を超 え、また「吉野川殿の川原坡協議 会」の自治体を巻き込んだ協助 取り組みとして注目された。

地域活 元 陹

流・歓迎行事において、天皇、

この2つの大きなできごと

同財団法人では、

の地域産業をNSD(持続可し、「紀の川(吉野川)流域

会づくりの担い手「教育」の具体的には、持続可能な社

ために、紀の川がつなぐ林義、

度協倒過味化事業の公募に対

町財団法人は環境省の27年

点でいかす教材化」をテーマ 能な開発のための教育)の視

として採択を受けた。 に申請し、全国で団体の一つ

流

極づくり大会ーやまとー」放 **書后両陛下が訪れ、おおたき**

催された第34回「全国費かな を定めた。平成26年同日に開を「源流の日」とする村条例 川上村では、毎年11月16日

> 約500人が参加。 国土保全 隣自治体関係者、一般市民ら 盟の9県19市町村の代表や近

> > きをはじめている。

につながる。山や大地や海、城の環境や風土を生かすこと

川などの自然に負荷をかけな

い暮らしを盛り上げていくこ を流域連携の目標に掲げ

目指す活動に着手、 た持続可能なモデルづくりを

着実な動

▼ESDでの教材

されたことを記念している。

の硫域連携」の具現化に向け 平成27年度の事業計画で「真 を受けて、 く必要性が提唱された。 ての連携をを具現化させてい の観点から、「流域圏」とし マ源流の日を制定

5回全国源流サミットが開催

ă

金国標流の郷協議会加



急速に進むが、

、林巣・農業・漁業の進むが、後継者不足の

がっているのが大きな特徴。 的にも高い質を誇る林嶷、農吉野川紀の川流域は、全国

漁業の第一次産業でつな

源流域では高齢化・過疎化が

問題は、

た現状がある。 持続を難しくしている共通し 続させることは、自然ととも 紀の川流域の第一次産業を持 そこで間事業では、吉野川

ん。中流域の農家でも環境保村だけの問題ではありませ **主型の農業を持続する意識を** の面で、山や森林の荒廃は山 起きるわが国では、治水など とこかで大規模な自然災害が

ESD

なげ、考え、行動

もに漁獲の量・質、糖類にど す。漁業でも、気候変動とと われます。 の川の恵みによって、豊かな んどんと影響が出ているとい 海が保たれているとすれば、 そのような中でも古野川紀 何意

るしの正なり」として掲げ、 苦すればいいのか、液いったい何を続けて、 次年度以降も流域の多様な人 かなければなりません。 なで学び、考え、行動してい 今年度の動きをさらにいか 一紀の川 (吉野川) じ 流域みん

同プロジェクトは国民共通

のコース設定や調整など、流 を担ってもらいました。いま を担ってもらいました。いま では「EESD」という言葉が

吉野川紀の川源流物語

そして文化を持続させる

尾上忠大事務局長に聞く

ワークショップでは現地視察 き取り先の還定や日程調整。 に取り組んだ感想は 馬上事業の過程では、 -協員が連化事業でESD

急形成もできました。 この

ら、紀の川吉野川とともにあ「つながり」を発展させなが

会う、話すための機会づくり

を継続して行っていくことを 「教材」として、この協働チ

時的な大雨が降り、

舞

価格として評価する文化を根

共有し、それを商品の価値・

うな期待感をもって、 流域の課題解決につながるよ れの口から出るようになりま

それぞ

ることが期待されています。 ことができるよう活動を続け る産業を持続させ、環境や最

一今後の展開について。

を出

目され、行動化が促され始め 規模で森と海のつながりが在

吉野川紀の川濃深物語・尾上忠大事務局基

考えています 事業に取り組んで行きたいと 考え、それぞれの行動となる

ぐ活動報告 未来へひき

ラムが2月8日、川上村迫の域をデーマにしたミニフォー 森と水の顔流館で開かれた。

トの一環で、吉野川紀の川流 えよう森里川海」プロジェク

環境省の「つなけよう、支

定を結ぶなど積極的に流域と

して、源流部の原生林を保全川上村は「水源地の村」と シンポジウムが行われた。 ラムは全国50カ所で開催さ 目指す取り組み。ミニフォー 境を守り支える社会づくりを の課題として、豊かな自然環 同月20日に富山市で総括 のジオラマを背景に、同村や 行われる同シアターの原生転

をつなど場をつくり、ともに

取り組み」について意見を交り、それを未来へとひきつぐ や森里川海と人とのつなが が「地域で残したい森里川海和歌山県から参加した約50人 森里川海」ミニフォーラム

森と水の源流館で開催



=2月8日、森と水の湖流館

。 の森シアター」が全場に選ば の 蓍徳設である同館の「水源地 の 蓍徳設である同館の「水源地 れた。通常は映像上映だけが 山市と水源地保護に関する協 恵みをつなく川 00.0

奈良県川上村

(3)

森と水の源流館 http://www.genryuu.or.jp

般(高校生以上)400円(300円) 小・中学生200円(150円) ():25名様以上団体割引

開館時間/9:00~17:00(入館受付は16:30まで) 毎週水曜休館

〒639-3553 奈良県吉野都川上村迫590-2(宮の平) 電話 0746-52-0888 FAX 0746-52-0388

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語 平成27年8月10日 発行(毎月1回10日発行)

Monthly, published by Japan Dam Foundation The Dam Digest

ISSN 0011-5967

● 【カラーグラビア】写真で見る長沼ダム

ダムマニアがゆく File 076

ダムマニアによって生まれたもの ダム管理所を訪ねて 5 一庫ダム管理所

> 🍑 文献に見る三峡ダム建設・その19 環境への影響と対策(3)

● 〔ダム建設功績者表彰受賞者からのメッセージ〕

ダムの思い出

流域交流による紀の川源流域の環境保全・啓発の活動 水上ダム建設工事の思い出

インタビュー 「ダムの今」 廣瀬利雄さんに聞く

~なんとしても突破しようと強く想うことが出発点になる~

🥮 ダム工学会/日本大ダム会議共催 第41回ダム現地見学会のお知らせ

レポート 「with Dam ☆ Night 2015」と「ダムナイトフ」

● 《環境防災学の視座と展開》

| 那賀川流域の風土に刻された災害の宿命。(二)

一渇水頻度日本一の深刻な川と那賀川流域のダム群ー

● 新刊紹介 昭和の刻印一変容する景観の記憶

● 日本ダム協会活動情報

2015



流域交流による紀の川源流域の 環境保全・啓発の活動

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語 事務局長



はじめに

このたび栄えある「第34回ダム建設功績者 賞」環境部門をいただきましたことについて、 主催団体関係者のみなさまならびに、平素より 本財団の運営をご支援いただくみなさまに深く 感謝を申し上げますとともに、あらためて大滝 ダム建設にあたり尽力をされた多くのみなさま に敬意を表するものです。

本財団は平成14年度に設立し、大滝 ダムの受け入れを機に「水源地の村」 として生きていくことの心定めをした 川上村とともに、河川流域ほか水の届 くところの人々との交流・連携を通じ て、よりよい水源環境の保全を目指す 団体として活動してまいりました。今 回ここに私たちの理念やこれまでの取 組みの一部を拙筆ながらまとめさせて いただきます。

1. 奈良県川上村

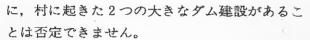
川上村は奈良県南東部,和歌山湾へ と流れ込む一級河川紀の川(奈良県内 での名称は吉野川)の源流に位置しま す(図-1)。面積は大阪市よりもひと 回り広く(269.16km²), その95%は森林です。年間雨量4000mmを越える大台ケ原に近いことから、豊かな雨と温暖な気候が吉野杉や桧の優良材を育んできました(写真-1)。川上村の林業の歴史は500年といわれ、吉野林業の発祥の地として栄えてきました。1965年頃までは7500人を超えていた村の人口は、2015年2月末時点で、1590人、高齢化率は56.1%(奈良県最高率)となっています。この背景には林業の低迷ととも



^{*}第34回(平成26年度) ダム建設功績者表彰受賞者



写真-1 約300年生の人工林



1973年に農林省(現・農林水産省)の「十津川・紀の川総合開発事業」にもとづく大迫ダムが完成。また1959年に襲来した伊勢湾台風による甚大な被害を機に建設省(現・国土交通省)の大滝ダム建設計画が決定。54年間にわたる時を経て2013年3月大滝ダムの供用が開始されました(写真-2)。両ダム事業による水没、移転は約680世帯に及びました。

大滝ダムの完成により、川上村はいよいよ文字通りの「水がめの村」となりました。安定して、汚れのない水をダムに貯めるためには、後背地の山や森をいかに健全に保つかが重要です。いわゆる「緑のダム」の役割です。造られた「コンクリートのダム」の維持とともに「緑のダム」の機能を健全に維持していかなければならないことを水の届く地域の方々にも意識いただかなければなりません。

2.「水源地の村づくり」

基幹産業の不振と急激な過疎化の中で、川上村は1994年に策定した第3次総合計画を『吉野川源流物語』と題して、水を守る宿命を背負い、下流域のために自らその役割を果たしていこうという決意を構想に込め、"樹と水と人の共生"をキャッチフレーズに個性的で魅力ある「水源地の村づくり」をスタートさせました。つづく1996年には、『川上宣言』を全国に向け発信しま

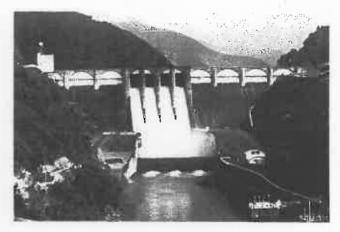


写真-2 大滝ダム

した。

《川上宣言》

- 私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流します。
- 私たち川上は、自然と一体となった産業を 育んで山と水を守り、都市にはない豊かな 生活を築きます。
- 私たち川上は、都市や平野部の人たちにも、 川上の豊かな自然の価値にふれあってもら えるような仕組みづくりに励みます。
- 私たち川上は、これから育つ子供たちが、 自然の生命の躍動にすなおに感動できるような場をつくります。
- 一 私たち川上は、川上における自然とのつき あいが、地球環境に対する人類の働きかけ の、すばらしい見本になるよう努めます。

森林や川をはじめ、源流域の大切な資源である自然とともに生き、人が健やかに暮らすため 欠かせない水を流域に届けつづけることで、こ の小さな村が環境の時代のリーダーとしての役 割を担っていこうとする気持ちがこめられたも のであったと思います。

そして、この宣言の一つ一つを具現化していくことが、村づくりであると考え、1999年から2002年にわたり、源流部に残る手つかずの原生林約740haを購入。村有林「吉野川源流-水源地の森」(以下「水源地の森」)として保全してい



写真-3 「水源地の森」

くこととしました(写真-3)。ダムが造られた村が自らの資金で下流域のために、水源林保護を目的に森を買うという例は珍しいということでした。またこの「水源地の森」の購入と同じ時期の2002年に川上村は「森と水の源流館」を建設しました(写真-4)。源流の素晴らしい自然と水源地を守ることの大切さを伝え、水資源や森林の環境を考えるきっかけを提供するとともに、先人たちが重んじてきた自然とともにあった暮らしについても伝える展示施設として計画されたものです。

3. 運営法人「吉野川紀の川源流物語」

川上村では、「水源地の森」や「森と水の源 流館」の維持・管理と運営を担う法人等の検討 にあたり、当時既に村には「財団法人グリーン パークかわかみ」がありましたが、観光事業を 主に取り組むこの法人とは別に, あらたな公益 法人を設立することとしました。それはあくま でも軸足を「環境」に置き、施設管理だけでな く、自主事業として行政ではできないような柔 軟かつ軽快に流域と連携した活動を行い、来た る環境の時代に重要な役割を担う団体となるよ う願いを込めて「財団法人吉野川紀の川源流物 語」としました。基本財産への出損は川上村と 河川関係団体からなり, また役員等は吉野川紀 の川流域にあたる奈良県,和歌山県,和歌山市, 橋本市, 奈良県水道局, 和歌山市水道局等の参 画によって構成されています。後の公益法人に

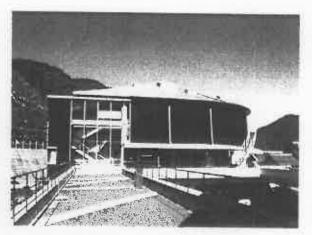


写真-4 「森と水の源流館」

関する制度改革を受け、設立から10周年を迎えた2012年、この法人は公益財団法人としてあらためてスタートし、源流域の自然環境の保全と、流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結ぶ活動に取り組んでいます。次に具体的な活動のいくつかをご紹介します。

4. テーマは「流域交流」と「源流学|

私たちの活動テーマを2つのキーワードで表現しています。ひとつは「流域交流」です。流域とは、河川流域、つまり和歌山市を河口とし、海へと流れていく一本の川でつながるところの人々、また途中で取水され、県や市町村の施設を経て、水道水や農業用水として届いている奈良県内の人々、さらには、直接水は届きませんが、広い意味で森や山の恩恵を享受する京阪神地域など都市部の人々を対象としています。

そしてそれらの人々に訴求するテーマとして、「源流学」というキーワードを掲げています。 「源流学」とは、源流において人と自然の役割について考え、行動し、その体験の中から1人 1人が答えを見出していく取り組みです。源流の自然、環境、生き物、生活、風土、人や物の交流、産業、歴史、遊び、等、源流についてのさまざまなことを知り、行動していくことが「源流学」であると考えています。今では都会の生活で失くしてしまった豊かなものやこと、また生きる力につながることを「源流学」として楽しく体験しながら伝えています。そしてそのよ うなひと時を求めて、あるいはそのような環境 に住まいしてみたいと考える機会を提供したい と考えます。

5. さまざまな交流プログラム

《水源地の森ツアー》

源流域の貴重な自然の象徴である「水源地の 森」は、保全の観点から普段は入山制限を行っ ています。他地域での世界遺産認定の森林の例 でも、急な観光化が進み、一度に多人数が進入 することで生態系等への影響が懸念されている ためです。「水源地の森」では共生可能な許容人 数やその根拠はまだ明確ではありませんが、一 旦失ってしまっては取り返せないことには間違 いがないと確信し、観光とは異にする位置づけ で、ゆるやかな取り組みを行っています。毎年 3回程度の開催日を設定し、一般参加者を募り 実施する「水源地の森ツアー」のほか、小学校 から高校、大学生、また大人の環境学習、市民 グループや企業の研修活動の機会として、観察 指導員が同行し「水源地の森」を訪ねる源流体 験学習を行っています。

人工林のまっすぐ伸びる木々の間をぬけ出て 原生林に進み入ると目に飛び込むのは、岩に根 を張りグネグネと枝を伸ばす広葉樹。その中か ら見上げた空、積もった落葉を踏む感触、生き 物との出会い、苔をしたたり途切れなく石を打 つ水しぶき、透きとおった淵の輝き、その水を ロに運んだときに参加者は感嘆の声をあげます。「癒される」と感想を述べる参加者も少なくありません。しかしこのツアーでは、そこからさらに一歩先の気づきを提供することを目標としています。自分たちに届く水のふるさとを知り、それを守るために、その水が少しでもきれいなまま自分に届くために、「バトンリレー」のように自分から下流側に住む人々にもきれいな水が届けられることを考えるきっかけとなるよう働きかけています。これを繰り返しながら「水源地の村」の存在価値を伝え、流域からの応援を得て、山村地域が自信をもって歩み続けることにつなげたいとも考えています(写真-5)。

《地域体験プログラム》

地域が誇る資源は「水源地の森」だけではありません。山菜が芽吹く春に始まり、ホタルが里に舞う初夏の夕べ、秋の紅葉、滝が凍ってつくりあげる真冬の「氷瀑」といった四季折々に魅せられる景色。また「生きた化石」と呼ばれる針葉樹トガサワラをはじめ、他ではなかなか出会うことができない植物や生き物。これらの自然資源はもちろん、地域固有の行事や風習、郷土料理、史実や伝説にまつわる場所や史跡など、歴史・民俗的資源も豊かです。そして切り離すことができない吉野林業に関連する素材。これらを融合し、村の人々の暮らしや営みに触れることで伝える体験プログラムを実施しています。たとえば人工林の見学や間伐の体験とあ



写真-5 水源地の森ツアー



写真-6 樟丸工場の見学

わせて、吉野杉を原料とした「樽丸」(写真-6) という樽の部材をつくる現場を訪ね、職人の話 を聞く、また、割箸工場を訪ねる。あるいは薪 割りを体験したあと、まだ現役でカマドを使う 旅館の厨房を訪ね、郷土料理の「茶がゆ」を食 するなど、いずれもそこで暮らしてきた村の 人々が語り部となって、伝えてくれています。

《自然観察会「吉野川・紀の川しらべ隊」》

源流域の自然や歴史的資源に目を向けるだけでなく、紀の川中下流域へも出かけ、たとえば河口の干潟や、中流域の水田やため池など、その地域の人々との交流を通じて発見をし、一本の川でつながる「流域のたからもの」として守り育てていくためのきっかけづくりを実施しています。この活動によって水源や自然環境保全にかかわる活動と人材のネットワークづくりも目指しています。

《源流学の森づくり》

「水源地の森」に隣接し、かつては同じ原生林だった山が、パルプ供給の出材のために一旦皆伐され、今では二次林となっています。そこでは、雨による斜面崩壊を繰り返す箇所があり、流出した土砂が、源流域の渓流をどんどん埋めて浅くしています(写真-7)。二次林も今のところは、早く育つ樹種ばかりの欝蒼とした森となっていることから、表土の流出が止まりません。この森の下層植生の生育促進のために、作

業歩道を整え、除伐作業を行なっています。作業体験だけでなく、ノコギリの目立てやカマ研ぎなどの道具の手入れの指導を受け、また昔ながらの囲炉裏や五右衛門風呂まで備えた、山小屋づくりの体験も行いました。この小屋を作業拠点に、火おこしや食事の用意などを交えながら、森の手入れを行う活動にまちの人々の参加を呼び掛けています。

《流域自治体や企業・団体との協働》

この森の一部では、「和歌山市民の森づくり」が行われています。紀の川河口部に位置する和歌山市は、源流・川上村と2003年に「水源地保護に関する協定」を締結。以降現在まで3haの森の管理を行うほか、年に2回程度、市民の森づくり体験会を実施しています(写真-8)。また2012年から1haを関西電力労働組合(本店地区・大阪南地区本部)において、毎年2回1泊ずつのプログラムで森の手入れの活動を行ってくれています。

《森林環境教育の支援》

奈良県では平成18年度より森林環境税を導入し、人工林や里山の整備に充てられるとともに、森林環境教育のための体験学習や指導者養成等の推進に充てられています。私たちの活動においても、この頃から県内小学校をはじめとする教育機関からの受け入れや出張プログラムのニーズが高まってきました。



写真-7 河床上昇



写真-8 「和歌山市民の森づくり」体験会

「水源地の村」からのメッセージとして、森林環境教育のサポートを通じて何を伝えるべきかスタッフみんなで議論をしましたが、なかなか難しい問題です。ただ「なぜ今、森林環境教育なのか」という問いかけへの答えとして間違いなく言うべきことは、人工林・原生林を問わず「いま森林がピンチである」そして「それは山の問題だけでなく、平野部の暮らしにもかかわることである」ということだと思いました。そのことを森の魅力や役割とともに伝えることとして、活動をつづけています。

ここの源流域に来れば、様子が異なる次の4 つの森を一度に見ることができます。①手つか ずの原生林「水源地の森」、②原生林に一度手を 入れてしまった後の森、③3~400年前から今日 まで手入れを続けてきた人工林、④手入れがで きなくなっている人工林。それぞれから流れ出 てくる川の状態を見ると、岩の大きさや形、水 の色や温度も異なっています。「森の木を伐るこ とは、いいこと? 悪いこと?」という問いに 対し、いっしょに答えを考えるとき、原生林、 人工林、それぞれに対する人のかかわり方が見 えてくる生きた教材として活用しています。

6.「第34回全国豊かな海づくり大会」

「水源地の村づくり」の始動からちょうど20年となった2014年、奈良県では「第34回全国豊かな海づくり大会~やまと~」が開催されました。川上村は放流・歓迎行事会場となり、大滝ダムによってできた「おおたき龍神湖」の湖畔にて、11月16日天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、盛大なる式典が執り行われました。海の無い奈良県で行われたこの大会のテーマは「ゆたかなる森がはぐくむ川と海」です。きれいで多くの恵みを生む海になるには、豊かな森を守ることが大切だという、海と森のつながりが強く発信された大会でした。そして大会後に天皇陛下におかれ詠まれた御製を記した碑が湖面を見渡す場所に設置され、この大会の意味を語り伝えています(写真一9)。

この大会に向けて, 川上村では村民とともに



写真-9 御製碑

紀の川河口部のしらす漁師や吉野川分水を通じてつながる大和平野の農家や浄水場を訪ねるなど、水のゆくえをたどり、このテーマの意味をしっかり学習しながら、もてなしの心で盛り上げてきました。「源流」「水源地」である地域としての役割と意義をあらためて認識することができました。常に流域を意識し、源流の役割を体験や実感として伝える活動に取り組んできた私たちにとっても、その成果を認めていただけたように思える大変うれしい年となりました。

7.「真の流域連携」をめざして

河川を通じて森から海へつながる意味を全国 的に発信することができた年を終えて、これか らの課題は「真の流域連携」をともに考えて、 行動していくことだと考えています。そのヒン トとなる取組みがあります。奈良盆地と言われ、 かつて渇水のため稲作において大変な苦労を強 いられた大和平野では、現在農業用水路「吉野 川分水」が巡らされ、紀の川(吉野川)から安 定して水が届いています。2011年11月大和平野 土地改良区から約2万軒の農家に呼びかけ,9 t もの新米が「おかげ米」と名付けられて川上 村にも届けられました。水源地への感謝の気持 ちを形として届けようという取組みです。急峻 な地形のため水田が1枚も無い川上村では村民 も大変喜び, 各世帯や学校給食での利用, また 村立ホテルのメニューにも取り入れ、まちから



写真-10 漁師交流

訪れた人々にも農家の方々の崇高な思いを紹介 させていただきました。

このように、これからは一過的なイベントの繰り返しではなく、日々の活動の中で流域の絆が形となって、双方の意識が高まる結果、流域全体の環境がよくなり、それを守る人々の暮らしも豊かであり続けるような取り組みに力を入れて行きたいと思います。そのためには経済的な連携についても模索してみたいと思います。もちろん私たちの団体だけで実現できることではありません。海づくり大会を契機に交流が深まった、中流域の農家や、河口域の漁師(写真一10)。そして源流・上流部の林業・林産業で頑張っている仲間たちとの協働の取り組みによって、地域の恵みを「吉野川・紀の川流域ブランド」

として打ち出し、それぞれの場所での体験と合 わせて振興につなげていきたいと思います。

おわりに

源流域の山村地域では、深刻な過疎問題を抱えています。いま川上村役場では、集落支援策や村外からの移住を含めた定住促進の施策にも意欲的に取り組んでいます。そのような中で、私たちの活動を通じても「源流地域は、豊かである」ということをこれからも伝えていきたいと思います。自然が豊かであるということは、時には厳しく、アクセスも容易でないところが多くあります。しかし、だからこそ守っていく必要があるということを多くの方々に伝え、賛同をいただけるよう努力をしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語 森と水の源流館

〒639-3553

奈良県吉野郡川上村迫590-2 (宮の平)

電話 0746-52-0888

FAX 0746-52-0388

http://www.genryuu.or.jp



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平

電話 0746-52-0888 FAX0746-52-0388

http://www.genryuu.or.jp e-mail:morimizu@genryuu.or.jp